



# 若草句会

# 塩川 雄三先生 選

十二月 兼題 師走「虎落笛」 着ぶくれ 千両

## 選者句

虎落笛心のどこか空虚にて



## 入選句

- |                |        |
|----------------|--------|
| 過ぎて行く思ひ出多き師走かな | 野口 喜代浩 |
| 生きてこそ悲喜交交の年暮るる | 野村 富雄  |
| 意に反し少し手抜きの年用意  | 住田 豊子  |
| 万感の師走の句会始まりぬ   | 関 純子   |
| 年の暮れ氏子総出の宮掃除   | 三浦 まゆみ |
| 千両を供へ霊泉祀らるる    | 東間 キミヨ |
| 着ぶくれて早朝よりのバス旅行 | 西村 公子  |
| 独り居の楽しさもあり年用意  | 平井 朝子  |
| それぞれの絆見直す師走かな  | 中野 洋子  |
| 実千両栲杓の牽はね返す    | 小田 良子  |

若草句会は平成二十八年十二月十日  
第一〇二回を以て閉会致しました。

## 川柳

侘び心あの世の母に届けたい 磯部茂 三句  
 しまるドアあゝやれやれ出て行つた 小島仁恵  
 ない毛をばきやつきやと掴む孫の手が 松尾義明

高1保体 中野 博正 三句

新しい難儀も増える老いの道  
 良い返事しては苦勞を背負い込む  
 任せたと言つて成果は召し上げる

高1健福 松上 初美 三句

湯に浸かり老いも若きも若返る  
 母想うひとひらの雪をみだする  
 五十四年前が鮮明 今おぼろ



## 短歌

N高1美術 井上 恵子 二首

いく度もやるかやらずの後悔を  
 経験積みて成してゆくなり  
 褪せてゆくこの花色に変わり一つ  
 落ち着きて今心静かに